

IBM Sterling B2B Integrator



スケジューリング

バージョン 5.2

IBM Sterling B2B Integrator



スケジューリング

バージョン 5.2

注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、47 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

著作権

本書は、Sterling B2B Integrator のバージョン 5 リリース 2、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Sterling B2B Integrator
Scheduling
Version 5.2

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 2000, 2015.

目次

スケジューリング	1	スケジューリングのトラブルシューティング	33
スケジューリングの基本	1	スケジューリングに関する情報はどこにありますか	34
フェーズ 1: スケジューリングの前提条件およびテ		スケジューリングが実行されない場合どうしますか	34
スト環境におけるセットアップ	1	スケジューリングがスケジュールした時刻とは異なる	
フェーズ 2: テスト環境でのスケジュールのテスト	2	時刻に実行された場合どうしますか	35
フェーズ 3: スケジュールの実稼働環境へのエクス		スケジューリングのトラブルシューティングにログ・	
ポート	3	ファイルを使用できますか	35
スケジューリングの前提条件および計画	3	スケジューリング・ウィザードのパラメーター	37
スケジューリングのライセンスおよび許可	4	スケジューリング・ウィザード: スケジュール・	
アップグレード後のスケジュール	4	タイプ・ページ	37
AS2 エディションでのスケジュール	4	スケジューリング・ウィザード: レポートの E メール・	
スケジューリングの考慮事項	5	オプション・ページ	38
スケジュールされるアクティビティの基本情報	5	スケジューリング・ウィザード: 設定ページ	38
スケジュールする時刻に影響を与える期限	6	スケジューリング・ウィザード: ビジネス・プロ	
除外する時刻に影響を与える日付	6	セスおよびレポートの構成ページ	38
処理のピーク時およびオフピーク時	7	スケジューリング・ウィザード: ページの確認	39
スケジュールされたアクティビティの処理時間お		タイマーに基づいたスケジュールの実行	39
よび頻度	7	タイマー・スケジュールの設定 (時間間隔の選択)	39
スケジュールを使用可能にする	8	タイマー・スケジュールの除外 (時間間隔の選択)	40
スケジュールを使用不可にする	8	日付の除外 (タイマー・スケジュール)	40
スケジュールの削除	9	スケジュールを毎日実行する	40
ビジネス・プロセスのスケジュール	9	日次スケジュールの設定 (時間または時間間隔の	
ビジネス・プロセス・スケジュールの作成	10	選択)	41
ビジネス・プロセス・スケジュールの編集	10	日次でのスケジュールの除外 (時間間隔の選択)	41
ビジネス・プロセス・スケジュールの削除	11	日付の除外 (日次スケジュール)	41
ビジネス・プロセス・スケジュールの例	11	曜日に基づいたスケジュールの実行	42
スケジュールからビジネス・プロセスへのデータ		週次スケジュールの設定 (時刻/日の選択または時	
の受け渡し	14	間隔/日の選択)	42
レポートのスケジュール	16	週次スケジュールの除外 (時間間隔/日の選択)	43
レポート・スケジュールの作成	16	日付の除外 (週次スケジュール)	43
レポート・スケジュールの編集	17	日付に基づいたスケジュールの実行	43
レポート・スケジュールの例	18	月次スケジュールの設定 (時刻/日の選択または時	
スタンドアロン・サービスのスケジュール	20	間隔/日の選択)	43
スタンドアロン・サービスのスケジュールの作成	21	月次スケジュールの除外 (時間間隔/日の選択)	44
スタンドアロン・サービスのスケジュールの編集	22	日付の除外 (月次スケジュール)	45
スタンドアロンのビジネス・プロセスまたはサー			
ビスのスケジュールの削除	22	特記事項	47
スタンドアロン・サービス・スケジュールの例	23	索引	51
提供されるサービスおよびアダプターのデフォルト・			
スケジュール	24		

スケジューリング

IBM® Sterling B2B Integrator では、ビジネス・プロセス、レポート、およびサービスが、毎時、毎日、毎週、または毎月という間隔で自動的に実行されるように、スケジュールをセットアップすることができます。

スケジュールは、企業内のコミュニケーションのほか、企業外のパートナーとのコミュニケーションも向上させます。スケジューリングには次のような利点があります。

- 時間間隔を設定するとともに日時を除外できる柔軟性
- 以前は手動で行っていたプロセスを自動化することによる効率性向上
- 取引パートナーおよびバリュー・チェーンの他のメンバーとの応答時間向上
- ルーチンの自動化 (タスクの繰り返しおよびタスクを実行する時間および頻度の制御)
- 手動でアクティビティを実行することに伴うコストの削減
- リソースの効率的な使用による全体的な生産性向上

Sterling B2B Integrator のスケジュールは、手動アクティビティの自動化において多くの柔軟性を備えています。アクティビティが次の場合にスケジューリングを使用します。

- 手操作による介入を必要としない
- ルーチンで繰り返し発生する
- 特定の曜日または特定の日付や時刻に実行する必要がある
- 優先度が低く、オフピーク時に実行可能である

スケジューリングの基本

Sterling B2B Integrator では、スケジュールは、スケジュールされているアクティビティとは別に時刻および日付の情報を保管するデータベース内のリソースです。スケジュールは、アクティビティを実行する時間 (毎時、毎日、毎週、または毎月) を指定するほか、特定の時刻、時刻範囲、または日を除外することで通常の間隔をスキップする時間も指定します。各スケジュールは、1 つのビジネス・プロセス、サービス、またはレポートにしか使用できません。そのため、各ビジネス・アクティビティについて個別のスケジュールを作成する必要があります。

フェーズ 1: スケジューリングの前提条件およびテスト環境におけるセットアップ

手順

1. スケジュールするリソースのライセンス交付要件、許可要件、および環境要件を満たします。3 ページの『スケジューリングの前提条件および計画』を参照してください。
2. テスト環境で、スケジュールするビジネス・プロセス、サービス、またはレポートを作成または構成します。

手動でビジネス・プロセス、サービス、またはレポートをテストし、アクティビティが計画どおりに動作することを確認します。

3. テスト環境で、ビジネス・プロセス、サービス、またはレポートのスケジュールを作成します。

スケジュールリング・ウィザードを完了すると、新規スケジュールが使用可能になり、最初にスケジュールされた時間帯になると実行されます。また、「始動時に実行 (Run at startup)」オプションを選択した場合、スケジュールされたアクティビティは、スケジュールがデータベースに保存された直後に 1 回実行されます。その後、Sterling B2B Integrator の再開時にアクティビティが実行されません。

フェーズ 2: テスト環境でのスケジュールのテスト

このタスクについて

テスト環境で、スケジュールのテストおよびトラブルシューティングを行います。

手順

1. スケジュールを使用不可にし、アクティビティを手動で実行してから、スケジュールを使用可能にして、スケジュールされたアクティビティのテスト方法を確認します。新規に作成されたスケジュールは、自動的に使用可能になるため、アクティビティを手動で実行する前に、スケジュールを使用不可にする必要があります。使用不可にしない場合、スケジュールがアクティビティを自動的に実行している最中に同じアクティビティを手動で実行すると、エラーが発生するおそれがあります。手動テストの後、再度スケジュールを使用可能にする必要があります。そうしないと、スケジュールは動作しません。スケジュールリング・ウィザードで、スケジュールを停止または使用不可にするために「スケジュールしない (Do not schedule)」オプションを使用しないでください。このオプションを選択すると、今後スケジュールを使用可能にすることはできません。代わりに、スケジュールを再作成する必要があります。サービスまたはレポートでスケジュールを使用しないことを指示するためにのみ、このオプションを使用します。
2. テスト環境でスケジュールをテストし、サービス、ビジネス・プロセス、またはレポートがスケジュール通りに、時間パラメーターの許容範囲内で実行されることを確認します。例えば、ファイル・システム・アダプター構成を作成し、毎日 20 分ごとのスケジュールでファイル・システムからファイルを収集するとします。ファイル・システム・アダプター構成により正しいファイル・システムから正しいファイルが収集されない場合、このスケジュールは重要ではありません。この場合、スケジュールをテストする前に、サービス構成を修正する必要があります。
3. テスト環境では、通常のパフォーマンス条件の下でスケジュールをテストするようにします。例えば、テストの結果から、スケジュールされたレポートまたはビジネス・プロセスのサイズでは、システムの処理負荷に基づき、スケジュールされた時刻を移動する必要がある場合があります。また、あまりにも短い間隔でアクティビティを実行するのは生産的でないことがあります。この場合は、スケジュールを編集し、実行間の時間間隔を広げることができます。

4. スケジュールをさらに改善するために、想定されるレポートまたは出力のサイズに基づいて処理時間のベンチマークを作成することもできます。これにより、今後、類似したアクティビティーをスケジュールする際により高い精度で行うことができます。

フェーズ 3: スケジュールの実稼働環境へのエクスポート

手順

1. テスト環境からスケジュールをエクスポートし、それを実稼働環境にインポートします。

スケジュールのインポートおよびエクスポートは、他のリソースのインポートおよびエクスポートと同様に行います。1 つ以上のスケジュールを同時にエクスポートおよびインポートできます。

2. 実稼働環境で、インポートされたスケジュールが使用可能であることを確認し、スケジュールされたアクティビティーをモニターします。スケジュールの時間間隔の経過後、ビジネス・プロセス、サービスやアダプター、またはレポートの出力を確認します。
 - a. 出力が正しく、時間パラメーターの許容範囲内である場合は、テストは正常に完了しています。
 - b. 出力は正しいが、時間パラメーターの許容範囲内でない場合は、スケジュールの編集が必要である可能性があります。
 - c. 出力が存在せず、スケジュールが実行されなかったことが推測される場合、Sterling B2B Integrator のモニター機能を使用してアクティビティーが実行されることを確認します。
3. 実稼働環境で、必要に応じて、スケジュールのモニターおよび調整を行います。

通常のスケジュール以外の時刻にスケジュールされたアクティビティーの出力が必要な場合、実稼働環境でスケジュールを使用不可にしてから、使用可能にする必要があります。例えば、スケジュールされた次のレポート実行は次の日である場合に、緊急のミーティングのためのレポート実行が必要だとします。この場合、ミーティングのために最新の情報を得るために、レポートを手動で実行します。手動で実行する際は、エラーが発声しないようにスケジュールを使用不可にしてレポートを手動で実行してから、レポートが自動的に実行されるように再度スケジュールを使用可能にする必要があります。

スケジューリングの前提条件および計画

スケジュールの作成時には、実行するアクティビティーの時刻および日付の設定以外のことも行います。Sterling B2B Integrator の全体、お客様のビジネスおよび取引パートナーとのビジネスで、スケジュールがどのように動作するかを考慮する必要があります。

アクティビティーを自動化するためにスケジュールを作成することで、応答時間の短縮およびバリュー・チェーン・パートナーとのコミュニケーションの改善など多くの点でビジネスを支援することができます。しかし、不適切な時刻に実行されるアクティビティーのスケジュールを作成すると、ビジネス機会を失うことがありま

す。また、処理のピーク時にリソース集約的なアクティビティーをスケジュールすると、システム・パフォーマンスの低下、エラー、または企業の収益の損失の原因になるおそれがあります。

スケジュールングのライセンスおよび許可

テスト環境または実稼働環境でスケジュールをセットアップする前に、以下の前提条件を満たす必要があります。

- スケジュールするサービスおよびアクティビティーの適切なライセンス・ファイルが必要です。
- ユーザー・アカウントに適用される適切なセキュリティ許可が必要です。

UI BP マネージャー

グラフィカル・プロセス・モデラーをダウンロードし、ビジネス・プロセスの作成および管理を行うことができます。

UI レポート

レポートの作成、管理、およびスケジュールを行うことができます。

UI サービス

サービスのインストール、構成、管理、およびスケジュールを行うことができます。

UI スケジューラー

ビジネス・プロセスのスケジュール、スケジュールの検索、および、ビジネス・プロセスおよびサービス・スケジュールの編集ができます。

UI インポート/エクスポート

スケジュールおよび関連付けられたビジネス・プロセス、サービス、またはレポートを Sterling B2B Integrator の他のシステムにエクスポートすること、および、スケジュールおよびリソースを Sterling B2B Integrator にインポートすることができます。

UI ログ

スケジュールのトラブルシューティングのために、schedule.log ファイルおよび reports.log ファイルを表示できます。

アップグレード後のスケジュール

Sterling B2B Integrator をアップグレードすると、スケジュールは新しいバージョンにアップグレードされ、構成したスケジュール設定に基づき実行されます。

Sterling B2B Integrator のアップグレード後、「展開」 > 「スケジュール」 > 「検索」を選択し、スケジュールを確認できます。各スケジュールを見つけ、スケジュールが使用可能になり正しく定義されていることを確認します。

AS2 エディションでのスケジュール

Sterling B2B Integrator の AS2 エディションでは、ビジネス・プロセスについてのみスケジュールをセットアップできます。AS2 エディションは、サービスのレポートまたはスケジュールをサポートしません。

- AS2 エディションのインストール後、ビジネス・プロセスのデフォルトのスケジュールはありません。
- AS2 エディションでは、AS2 エディションで作成したビジネス・プロセスのスケジュールのみリストされます。しかし、Sterling B2B Integrator の完全なバージョンでは、完全なバージョンおよび AS2 エディションの両方で作成したビジネス・プロセスのスケジュールがリストされます。

スケジュールリングの考慮事項

このセクションでは、ビジネス・プロセス、サービス、およびレポートのスケジュールリングに関するさまざまな考慮事項の要約が示されています。

スケジュールされるアクティビティの基本情報

どのようなタイプのアクティビティをスケジュールしており、そのアクティビティの出力先はどこですか。

ビジネス・プロセス、レポート、またはサービスをスケジュールしますか。

ビジネス・プロセス、レポート、またはサービスが作成されて構成されていること、およびリソースの名前が分かっているようにします。

例えば、エクスポート・アクティビティをスケジュールする必要がある場合、エクスポート・サービスをスケジュールすることができるのは、このサービスがビジネス・プロセスに含まれているときに限られます。エクスポート・サービスを含むビジネス・プロセスを作成した後に、ビジネス・プロセスをスケジュールする必要があります。

スケジュールされるアクティビティにより、スケジュールの作成方法が決まります。なかには、ビジネス・プロセスとは関係なくスケジュールできるサービスもあります。

ビジネス・プロセスをスケジュールする場合、データをビジネス・プロセスに受け渡す必要がありますか。

スケジューラーは、ビジネス・プロセスを呼び出すときにビジネス・プロセスに XML データを受け渡すことができます。スケジュールの作成時にデータの名前/値の組を定義します。

誰が、またはどのビジネス・プロセスまたはサービスが、スケジュールされたビジネス・プロセス、サービス、またはレポートの出力を必要としていますか。

例えば、管理者が毎日特定の時刻にレポートを必要としている、またはあるビジネス・プロセスで別のビジネス・プロセスからの出力が必要であるという場合があります。

これにより、出力の送信先、またはスケジュールされたアクティビティにより呼び出されるビジネス・プロセスやサービスが決まります。

出力を使用するビジネス・プロセスまたはサービスもスケジュールされていますか。

例えば、ビジネス・プロセスをスケジュールし、他のスケジュールされたビジネス・プロセスで必要なインボイスを生成する場合があります。

これにより、スケジュールの日時が決定されます。これは、出力を生成するスケジュールされたアクティビティは、2 つ目のスケジュールされたアクティビティが開始する前に完了している必要があるためです。

ビジネス・プロセス、サービス、またはレポートをスケジュールだけでなく手動で実行しますか。

例えば、急ぐ際に手動でレポートを実行する必要があるが、レポートの実行が毎時スケジュールされている場合があります。エラーを防ぐために、レポートの実行がスケジュールされている時刻にレポートを手動で実行しないようにします。スケジュールされたアクティビティを手動で実行する前に、スケジュールを使用不可にする必要があります。

スケジュールする時刻に影響を与える期限

スケジュールの設定が必要な時間に影響を与える、内部および外部の期限がありますか。期限に応じて、アクティビティの実行をスケジュールしなければならない日時を決定できます。

企業の報告書作成期限

企業内の異なる部門にさまざまなタイプの情報を報告することで、ビジネス・プロセス、サービス、およびレポートのスケジュールが影響を受けることがあります。

企業の優先度または戦略の変更

優先度および戦略を変更すると、どのビジネス・プロセスが他のビジネス・プロセスより優先度が高いか、またどのレポートが他のレポートより重要度が高いかという点でも変更が生じる可能性があります。

このような状況は、Sterling B2B Integrator でのアクティビティのスケジュールリングにも影響します。このような点を考慮することは、スケジュールのタイプおよび処理のピーク時またはオフピーク時に実行するアクティビティを決定するのに役立ちます。

取引パートナー契約

取引パートナー契約には、ドキュメントのターンアラウンド・タイム、重要な応答期限を超えることに関する罰金、およびバリュー・チェーンにおいて取引パートナーとコミュニケーションを取るために重要な他の情報に関する規定が含まれることがあります。

例えば、取引パートナーがドキュメントの受け取りから 30 分以内にドキュメントの処理を要求する場合があります。

除外する時刻に影響を与える日付

スケジュールを実行する必要のない日または時間はありますか。祝日およびその他のイベントにより、スケジュールから除外される日時または優先度の低いスケジュールが含まれる日時を決定できます。

祝日および企業カレンダー

祝日および企業カレンダーに基づき、大規模なレポートまたはビジネス・プロセスを実行する最適な時間を決定できます。あるいは、祝日により、スケジュールで除外する日付を決定できます。

例えば、毎年 1 月 3 日が期限の大規模なレポートがあり、1 月 1 日は元日のため企業の休業日である場合、Sterling B2B Integrator でより多くのリソースが利用可能な 1 月 1 日にレポートの実行をスケジュールするという判断ができます。一方、企業の休業日には必要とされないルーチン・レポートは、1 月 1 日にスキップすることができます。

四半期における処理量の多い時期

処理量の多い時期には、優先度の低いスケジュールを除外する必要があります。

社内または取引パートナーにおける Sterling B2B Integrator または Sterling B2B Integrator と統合する他のシステムの定期保守。

定期保守はすべてのシステムについて必要です。 Sterling B2B Integrator またはこれと統合する他のシステムの保守を行う際には、この保守を行う期間に実行される予定のスケジュールを使用不可にすることができます。または、この期間を避けてアクティビティをスケジュールできます。このようないずれかの調整により、スケジュールを実行しようとしてエラーが発生する、またはスケジュールが待機中になるなどのパフォーマンス・レベルの問題が少なくなります。

さらに、取引パートナーの定期保守を考慮する場合、この保守の期間を避けてアクティビティをスケジュールし、他の処理に Sterling B2B Integrator のリソースを使用することができます。

処理のピーク時およびオフピーク時

システムに関して、1 日、1 週間、または 1 カ月の期間における処理のピーク時およびオフピーク時はいつですか。処理のピーク時およびオフピーク時を参考にし、 Sterling B2B Integrator で優先順位の高いアクティビティおよび優先順位の低いアクティビティを実行する時間を決定できます。これにより、パフォーマンスを向上させ、システム・リソースを最大限に使用できます。

例えば、毎日 8:00 a.m. から 5:00 p.m. の間に Sterling B2B Integrator に対して最大量の処理要求が発生する場合は、この時間間隔に優先順位のない作業をスケジュールしないようにします。

処理のピーク時には、 Sterling B2B Integrator のパフォーマンス・レベルが低下しないように、優先順位の低いスケジュールを避けるか除外する必要があります。

例えば、毎日 2:00 a.m. から 5:00 p.m. の間に Sterling B2B Integrator に対して最少量の処理要求が発生する場合は、この時間間隔に優先順位のない作業をスケジュールします。

処理のオフピーク時には、 Sterling B2B Integrator のパフォーマンス・レベルが低下しないように、優先順位の低いスケジュールを含める必要があります。

スケジュールされたアクティビティの処理時間および頻度

スケジュールするアクティビティの処理時間および頻度はスケジュールの間隔に影響を与えます。

ビジネス・プロセス、サービス、またはレポートに必要な合計処理時間

処理の実行が重ならないようにするために、合計処理時間は、ビジネス・プロセス、サービス、およびレポートのスケジュールングの際に重要になります。

例えば、ビジネス・プロセスが完了するのに合計で 30 分かかる場合、10 分おきにビジネス・プロセスが実行されるようにスケジュールしてはなりません。そうすると、エラーが発生する原因になります。

データまたは処理が必要な頻度

データまたは処理が必要な頻度を明らかにすると、アクティビティーに使用するスケジュール・タイプも決定することができます。

例えば、ファイル・システム・アダプター構成が 10 分おきにファイル・システムからドキュメントを収集し、このドキュメントが他のビジネス・プロセスで使用できるようにする場合、最適なスケジュール・タイプはタイマーです。しかし、サービス構成が毎週金曜日の 3:00 p.m. にドキュメントを収集する場合、最適なスケジュール・タイプは毎週です。

スケジュールを使用可能にする

このタスクについて

スケジュールを有効化すると、スケジュールがアクティブになり、関連付けられたアクティビティーがスケジュール設定に従って実行されます。スケジュールを実行するには、有効化する必要があります。

手順

1. 「展開」 > 「スケジュール」を選択します。
2. 「検索」または「リスト」を使用して任意のスケジュールを特定し、「実行」をクリックします。

レポート・スケジュールを見つけるには、スケジュールのために作成されたビジネス・プロセスを探します。フォーマットは *reportname_scheduleBP* です。

3. 「スケジュール」ページで、スケジュールを見つけ、「使用可能」列のチェック・ボックスを選択します。

スケジュールは即時に使用可能になり、次のスケジュールされた時刻に実行されます。

スケジュールを使用不可にする

このタスクについて

スケジュールを使用不可にすると、スケジュールが非アクティブになります。編集のためにスケジュールを停止する場合、またはアクティビティーを手動で実行する場合はスケジュールを使用不可にします。

手順

1. 「展開」 > 「スケジュール」を選択します。
2. 「検索」または「リスト」を使用して任意のスケジュールを特定し、「実行」をクリックします。

レポート・スケジュールを見つけるには、スケジュールのために作成されたビジネス・プロセスを探します。フォーマットは *reportname_scheduleBP* です。

3. 「スケジュール」ページで、スケジュールを探し、「使用可能」列のチェック・ボックスをクリアします。

スケジュールは即時に使用不可になり、再度使用可能になるまで実行されません。

スケジュールの削除

スケジュールの削除は、スケジュールが呼び出す予定のアクティビティーとは関係なしに行うことができます。削除機能は、スケジュールが呼び出すビジネス・プロセス、サービス、またはレポートを削除しません。

このタスクについて

スケジュールを使用不可にすると、スケジュールは実行されませんが、Sterling B2B Integrator でアクティビティーをアクティブな状態に維持できます。

注: アーカイブ、索引付け、またはページのために事前構成されたサービスを削除しないでください。これらのサービスの削除はシステムのパフォーマンスに悪影響を与えます。

手順

1. 「展開」 > 「スケジュール」を選択します。
2. 「検索」または「リスト」を使用して任意のスケジュールを特定し、「実行」をクリックします。

レポート・スケジュールを見つけるには、スケジュールのために作成されたビジネス・プロセスを探します。フォーマットは *reportname _scheduleBP* です。

3. 「スケジュール」ページで、スケジュールを探し、「削除」を選択します。

「リソースのサマリー」画面には、確認できるようにスケジュールのデータが表示されます。

4. 「次へ (Next)」をクリックして、削除を続行します。

「確認」画面が表示されます。

5. 「削除」をクリックして、ビジネス・プロセス・スケジュールを削除することを確認します。

スケジュールは即時に削除されます。ブートストラップされるプロセスなど、このスケジュールに関連付けられた他のビジネス・プロセスは処理されません。

6. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

ビジネス・プロセスのスケジュール

ビジネス・プロセスが、毎時、毎日、毎週、または毎月という間隔で自動的に実行されるようにビジネス・プロセスのスケジュールをセットアップすることができます。スケジュールを使用して、スケジューラーがビジネス・プロセスを呼び出すときに XML 構造化データをビジネス・プロセスに受け渡すこともできます。

ビジネス・プロセス・スケジュールの作成

手順

1. スケジュールするビジネス・プロセスを作成または表示します。
2. Sterling B2B Integrator で、「展開」 > 「スケジュール」を選択します。

Sterling B2B Integrator AS2 エディションで、「管理メニュー」 > 「スケジュール」を選択します。

3. 「ビジネス・プロセスのスケジュール」の横にある「実行」をクリックします。
4. スケジューリング・ウィザードに従い、スケジュールをセットアップします。

タイマー、毎日、曜日、または日付に基づいてスケジュールを実行できます。

5. スケジュールで XML データをビジネス・プロセスに受け渡すようにする場合、「ビジネス・プロセスおよびオプションの名前/値の組の選択」画面で以下を行います。
 - a. リストで、スケジュールするビジネス・プロセスを選択します。
 - b. 最初の名前/値の組の値を入力します。
 - c. 必要に応じて「付加」にチェック・マークを付けます。
 - d. 「追加 (Add)」をクリックします。
6. 追加で名前/値の組を定義する場合は、ステップ 5 を繰り返します。完了したら、「次へ (Next)」をクリックします。

「確認」画面で「終了」をクリックすると、スケジュールが保存され、使用可能になり、実行できる状態になります。

ビジネス・プロセス・スケジュールの編集

手順

1. 編集中のスケジュールを使用不可にします。この操作により、作業中にスケジュールが実行された場合のエラーを防ぐことができます。
2. Sterling B2B Integrator で、「展開」 > 「スケジュール」を選択します。

Sterling B2B Integrator AS2 エディションで、「管理メニュー」 > 「スケジュール」を選択します。

3. スケジュールの名前がわかる場合は、その名前を「検索」フィールドに入力し、「実行」をクリックします。

または、リスト・ボックスを使用して、「ビジネス・プロセス」を選択し、「実行」をクリックします。リスト・スケジュールで、任意のスケジュールの横の「編集」をクリックします。

4. スケジューリング・ウィザードに従い、セットアップを完了します。

タイマー、毎日、曜日、または日付に基づいてスケジュールを実行できます。

「終了」をクリックして、スケジュールの変更を保存および適用します。

5. スケジュールを使用可能にします。

ビジネス・プロセス・スケジュールの削除

手順

1. Sterling B2B Integrator で、「展開」 > 「スケジュール」を選択します。

Sterling B2B Integrator AS2 エディションで、「管理メニュー」 > 「スケジュール」を選択します。

2. スケジュールの名前を「検索」フィールドに入力し、「実行」をクリックします。

正確なスケジュール名が分からない場合は、「リスト・ボックス内のビジネス・プロセス (Business processes in the List box)」を選択し、「実行」をクリックします。

3. 削除するスケジュールの横にある「削除」をクリックします。

「リソースのサマリー」画面には、確認できるようにスケジュールのデータが表示されます。

4. 「次へ (Next)」をクリックして、削除を続行します。

「確認」画面が表示されます。

5. 「削除」をクリックして、ビジネス・プロセス・スケジュールを削除することを確認します。

スケジュールは即時に削除されます。ブートストラップされるプロセスなど、このスケジュールに関連付けられた他のビジネス・プロセスは処理されません。

6. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

ビジネス・プロセス・スケジュールの例

この例は、以下の 4 つのスケジュールリング・アクティビティで構成されます。

- 毎日、複数の時間間隔でビジネス・プロセスをスケジュールする (タイマー・スケジュール)。
- 毎日、特定の時刻にビジネス・プロセスをスケジュールする (日次スケジュール)。
- 毎週 1 日、特定の時刻にビジネス・プロセスをスケジュールする (週次スケジュール)。
- 月に 1 日、特定の時刻にビジネス・プロセス・アダプターをスケジュールする (月次スケジュール)。

ビジネスには、単純なものから複雑なものまでさまざまなタイプのプロセスが含まれます。多くのプロセスで中心的役割を担うのが、確認応答です。確認応答は、バリュー・チェーン・パートナーとビジネスを行う上で非常に重要です。取引パートナーから確認応答が得られない場合は、ビジネス・プロセスがエラーになった、実行されなかった、または待ち状態にある可能性があります。

事前定義されたビジネス・プロセス `OverdueAckCheck` を毎日一定の時間間隔で実行するようにスケジュールすることで、確認応答を得られなかったビジネス・プロセスを追跡することができます。

さらに、毎日実行され、ベンチマークと比較するためのパフォーマンス統計を提供するビジネス・プロセスを作成したり、オフピーク時に取引パートナーにバッチでデータを送信することでリソースを節約したりできます。あるいは、インボイスを中小規模の取引パートナーに 1 カ月に数回送信する代わりに 1 カ月に 1 回で送信することができます。

Sterling B2B Integrator のビジネス・プロセス使用レポート、他のレポート、および統計を使用して過去の処理傾向を分析することで、ビジネスにおける処理のピーク時が 8:00 a.m. から 10:00 p.m. で、この処理のピーク時に大量の Sterling B2B Integrator リソースを必要とする中程度から大規模の処理ボリュームが発生していると判断できます。

上記の分析により、以下をスケジュールする必要があると判断します。

- 確認応答を待つビジネス・プロセスをチェックするために毎日 30 分ごとに実行される OverdueAckCheck ビジネス・プロセス
- オフピーク時の 11:00 p.m. に毎日実行されるパフォーマンス・テスト・ビジネス・プロセス
- 週単位で、ファイル・システムから取引パートナーにバッチでマップ更新を送信するビジネス・プロセス
- 月単位で、中小規模の取引パートナーにインボイスをバッチで送信するビジネス・プロセス

以下のリストは、このビジネス・プロセスに設定するスケジュール・パラメーターを示しています。

OverdueAckCheck

スケジュールに入れるビジネス・プロセス (Business Process to schedule):
OverdueAckCheck (Sterling B2B Integrator で事前定義済み)

タイマーまたはクロック: タイマー

システム: node1

実行日: 毎日

スケジュールされた時刻: 0 時間 30 分ごと

除外する時刻: なし

除外する日: なし

始動時: いいえ

実行ユーザー: 管理者

パフォーマンス・テスト

スケジュールに入れるサービス (Service to schedule): 作成するパフォーマンス・テスト・ビジネス・プロセス

タイマーまたはクロック: クロック (毎日)

システム: node1

実行日: 毎日

スケジュールされた時刻: 11:00 p.m.

除外する時刻: なし

除外する日: なし

始動時: いいえ

実行ユーザー: 管理者

マップ更新

スケジュールに入れるサービス (Service to schedule): 作成するマップ更新
バッチ・ビジネス・プロセス

タイマーまたはクロック: クロック (毎週)

システム: node1

実行日: 日曜日

スケジュールされた時刻: 11:00 p.m.

除外する時刻: なし

除外する日: なし

始動時: いいえ

実行ユーザー: 管理者

中小規模取引パートナー・インボイス

スケジュールに入れるサービス (Service to schedule): 作成するインボイ
ス・バッチ・ビジネス・プロセス

タイマーまたはクロック: クロック (毎月)

システム: node1

実行日: LDOM (月の最終日)

スケジュールされた時刻: 11:00 p.m.

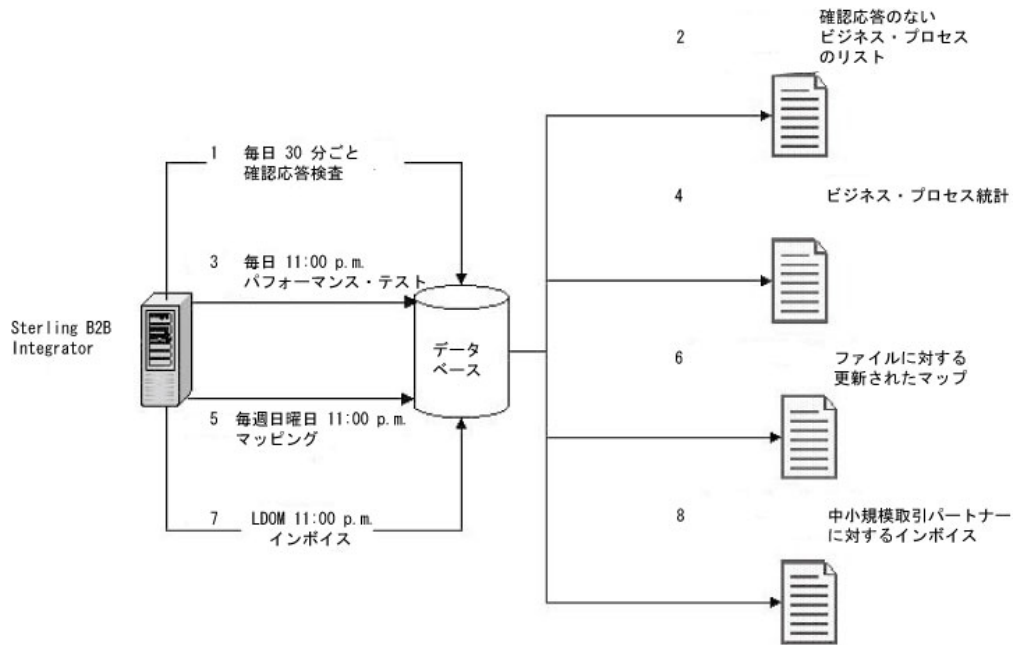
除外する時刻: なし

除外する日: なし

始動時: いいえ

実行ユーザー: 管理者

以下の図は、スケジュールで実行されるビジネス・プロセスおよび各ビジネス・プロセスの結果を示しています。



1. 事前定義されたビジネス・プロセスの OverdueAckCheck は、30 分ごとに実行され、確認応答を受け取っていないビジネス・プロセスをチェックします。
2. 確認応答のないビジネス・プロセスのリストが作成されます。
3. 毎日 11:00 p.m. に、作成したパフォーマンス・テスト・ビジネス・プロセスが実行されます。
4. ベンチマークと比較し、パフォーマンス・レベルが想定通りかを確認するためにビジネス・プロセス統計を利用できます。
5. 毎週日曜日の 11:00 p.m. に、マップの更新を取引パートナーに送信するために作成したマップ更新ビジネス・プロセスが実行されます。
6. 更新されたマップはファイル・システムに送信されます。ファイル・システムでは、取引パートナーのスケジュールされたファイル・システム・アダプターがマップを収集し、更新されたマップを自動的にインポートするビジネス・プロセスを呼び出します。
7. 毎月の最終日 (LDOM) の 11:00 p.m. に、中小規模の取引パートナーにインボイスを送信するために作成したビジネス・プロセスが実行されます。
8. インボイスは一度に中小規模の取引パートナーに送信されるため、Sterling B2B Integrator のリソース使用量が削減されます。

スケジュールからビジネス・プロセスへのデータの受け渡し

スケジュールは、名前/値の組のパラメーターを使用してビジネス・プロセスにデータを受け渡すことができます。名前/値の組は、XML 構造化データで定義されます。

スケジュールを使用してビジネス・プロセスを実行する方法は以下のように 2 つあります。

- UI によるビジネス・プロセスのスケジュールの構成。
- CreateSchedule XAPI の使用。

どちらの方法でも、XML 構造化データをスケジューラーに受け渡すことができ、スケジューラーがデータを使用してビジネス・プロセスを呼び出します。

ビジネス・プロセスにデータを受け渡すスケジュールの UI を使用しての構成

新しいスケジュールの作成時または既存のスケジュールの編集時に、スケジュールに名前/値の組を追加できます。名前/値の組は、ビジネス・プロセスが呼び出される時にビジネス・プロセスに XML 構造化データを受け渡すために使用されます。

スケジュールを作成する前に、必要な名前/値の組およびそれぞれのデータを付加するかどうかを決定する必要があります。

「ビジネス・プロセスおよびオプションの名前/値の組の選択」画面のスケジューラー・ウィザードでスケジュールを作成または編集する際に、名前/値の組を定義します。

また、ビジネス・プロセスが実行されるたびに名前/値の組のデータがデータベース内で上書きされるようにするか、実行されるたびにデータを付加しそれをデータベース内に保管するかどうかを決定することができます。データは、ビジネス上の理由で必要な場合のみ付加する必要があります。それ以外の場合は、デフォルトのままにしてください。

- ビジネス・プロセス・スケジュールの作成または編集については、10 ページの『ビジネス・プロセス・スケジュールの作成』または 10 ページの『ビジネス・プロセス・スケジュールの編集』を参照してください。
- スケジューラー・ウィザードについては、37 ページの『スケジューリング・ウィザードのパラメーター』を参照してください。

CreateSchedule XAPI を使用してのビジネス・プロセスへのデータの受け渡し

UI で作成されたスケジュールを使用してビジネス・プロセスの呼び出し（およびビジネス・プロセスへの名前/値の組の受け渡し）を行う代わりに、CreateSchedule XAPI を使用してビジネス・プロセスのスケジュールに関するプログラムの作成および実行を行うことができます。

CreateSchedule XAPI は、入力に TimingXML タグおよび NAMEVALUEPAIRXML タグが必要です。

注: これらのタグおよび CreateScheduleXML の他の要件の詳細については、アプリケーション API Javadoc を参照してください。

既存のスケジュールを呼び出す場合は、スケジュールの情報を取得するために GetScheduleDetails XAPI を使用できます。GetScheduleDetails の出力には、CreateScheduleXML の入力として必要な 2 つのタグが含まれています。

レポートのスケジュール

レポートが、毎時、毎日、毎週、または毎月という間隔で自動的に実行されるようにレポートのスケジュールをセットアップできます。アプリケーションは、デフォルトでレポートのスケジュールを行いません。次のガイドラインを考慮してください。

- スケジュールをセットアップする前に、レポート構成が存在している必要があります。
- 1 個のレポート構成につき 1 個のレポートのみ作成できます。
- スケジュールされたレポートの生成後、レポートをファイル・システムに保管するか、受信者に E メール (圧縮フォーマット) で送信できます。これらの選択項目は、レポート・スケジュールの一部としてセットアップします。
- レポートのスケジュールを作成すると、デフォルトのレポート名である *reportname_scheduleBP* を使用して自動的にビジネス・プロセスが作成されます。「展開」 > 「スケジュール」 > 「リスト」 > 「ビジネス・プロセス」を選択すると、他のビジネス・プロセスと共にスケジュールのビジネス・プロセスがリストされます。
- レポート構成が事前定義されている場合に、レポート構成名およびレポートのフォーマットを指定すると、レポート・サービスを使用してレポートをスケジュールすることもできます。

レポート・スケジュールの作成

手順

1. スケジュールするレポートを作成または表示します。
2. 「操作」 > 「レポート」 から、「レポートのスケジュール」を見つけ「実行」をクリックします。
3. 「レポート構成」 ページで、以下の操作を実行します。
 - 「スケジュールに入れるレポートの選択」 で、任意のレポートを選択します。
 - スケジュールで作成するレポートに使用するフォーマットを選択します。「次へ (Next)」 をクリックします。
4. 「E メール・オプション (E-mail Options)」 ページで、以下のオプションのいずれかまたは両方を実行し、「次へ (Next)」 をクリックします。
 - レポートをファイル・システムに保管するには、「レポートをファイル・システムに保管」を選択します。次に、場所へのパスを「ファイル・パス」フィールドに入力します。
 - 指定した受信者にレポートを (圧縮フォーマットで) E メールで送信するには、「E メール・アドレス (E-mail Address)」を選択します。次に E メール情報を入力します。
5. スケジューリング・ウィザードに従い、セットアップを完了します。

タイマー、毎日、曜日、または日付に基づいてスケジュールを実行できます。

「終了」をクリックすると、スケジュールが保存され、使用可能になり、実行できる状態になります。

レポート・スケジュールの編集

このタスクについて

レポート・スケジュールは次の 2 つの方法で編集できます。

- 「操作」 > 「レポート」から、任意のレポートを見つけ、そのスケジュールを編集できます。レポートのフォーマットの変更またはファイル・システムまたは E メール受信者へのレポート配信方法の変更を行う場合は、この方法を使用します。しかし、スケジュールを使用不可にする場合は、この方法だとより複雑になります。
- 「展開」 > 「スケジュール」から、レポート・スケジュールのために作成されたビジネス・プロセスを見つけ、編集できます。この方法を使用すると、編集前にスケジュールを容易に使用不可にできます。しかし、レポートのフォーマットの調整またはファイル・システムおよび E メール受信者へのレポート配信方法の調整は行うことができません。

手順

1. 始める前に、任意のレポート・スケジュールに対応するビジネス・プロセスの名前を把握します。レポート・スケジュールのビジネス・プロセスの名前は、*reportname_scheduleBP* (ここで、*reportname* はデフォルトのレポート構成の名前) のように付けられます。
2. 以下のいずれかの方法を選択します。

方法 A: レポートのフォーマット、配信方法、およびスケジュール時刻を変更する場合	方法 B: スケジュール時刻のみを変更し、レポート・フォーマットおよび配信オプションは保持する場合
<ol style="list-style-type: none">1. 任意のレポート・スケジュールのビジネス・プロセスを使用不可にします。「展開」 > 「スケジュール」 > 「リスト」 > 「ビジネス・プロセス」を選択します。リストで、任意のレポート・スケジュールの横の「使用可能」チェック・ボックスをクリアします。「戻る」をクリックします。2. 「操作」 > 「レポート」を選択します。「検索」または「リスト」を使用して、任意のレポートを表示します。リストから、任意のレポートの「スケジュール」列の「編集」をクリックします。3. レポート・フォーマットを指定します。「次へ (Next)」をクリックします。4. ファイル・システムにレポートを保管する配信オプションまたはレポートを E メール受信者に送信する配信オプションを指定します。「次へ (Next)」をクリックします。	<ol style="list-style-type: none">1. 任意のレポート・スケジュールのビジネス・プロセスを使用不可にします。「展開」 > 「スケジュール」 > 「リスト」 > 「ビジネス・プロセス」を選択します。リストで、任意のレポート・スケジュールの横の「使用可能」チェック・ボックスをクリアします。2. リストで、任意のレポート・スケジュールの横の「編集」をクリックします。

3. スケジューリング・ウィザードに従い、スケジュールを調整します。

タイマー、毎日、曜日、または日付に基づいてスケジュールを実行できます。

「終了」をクリックして、スケジュールの変更を保存および適用します。

4. 編集したレポート・スケジュールに対応するビジネス・プロセスを使用可能にします。

レポート・スケジュールの例

このスケジュールリング例は、以下の 3 つのスケジュールリング・アクティビティで構成されます。

- 除外を含め、毎日特定の時刻にレポートをスケジュールする (日次スケジュール)。
- 毎週 1 日、特定の時刻にレポートをスケジュールする (週次スケジュール)。
- 月に 1 日、特定の時刻にレポートをスケジュールする (月次スケジュール)。

管理者から、異なる時刻に以下のような 3 つのレポートをすべて HTML フォーマットで提供するように求められたとします。

- レポート 1 で、1 月 1 日の元旦などの祝日を除き、毎日 10:00 a.m. までに待ち状態にあるビジネス・プロセスを報告。
- レポート 2 で、毎週水曜日の 11:00 a.m. までに、指定した送信側 ID の週内で期限切れになっている機能確認応答の数を報告。
- レポート 3 で、月の最終日の 4:00 p.m. までに、月内に変更されたビジネス・プロセス定義を報告。

これらのレポートが自動的に生成されるようにスケジュールを設定し、これらのレポート情報が E メールでユーザーに送信されるようにすることができます。こうすることで、レポート作成に費やされる時間を短縮できます。管理者が指定した上記の要件に基づき、管理者に提供する各レポートの準備に 45 分必要であると判断します。そのため、管理者が指定した期限の 1 時間前にレポートが E メールでユーザーに送信されるようにします。

以下の表は、各レポートに設定するスケジュール・パラメーターを示しています。

レポート 1

スケジュールに入れるレポート (Report to schedule): BPDdetail_ByState

このレポートは、Sterling B2B Integrator で実行される各ビジネス・プロセスの状態を示します。

フォーマット: HTML

E メール・アドレス (E-mail Address):

- 件名: レポート 1
- E メール・アドレス (E-mail Address): yourname@yourcompany.com
- E メール・ホスト (E-mail Host): 使用する E メール・ホスト・サーバー名
- E メール・ポート (E-mail Port): 使用する E メール・ポート番号

スケジュール・タイプ: 毎日

スケジュール時刻 (Schedule Time): 9:00 a.m.

日付の除外: 1 月 1 日

レポート 2

スケジュールに入れるレポート (Report to schedule):

EDIOAck_GroupLevel_BySenderReceiver

このレポートは、送信側 ID または受信側 ID に基づいて確認応答のステータスを示します。

フォーマット: HTML

E メール・アドレス (E-mail Address):

- 件名: レポート 2
- E メール・アドレス (E-mail Address): yourname@yourcompany.com
- E メール・ホスト (E-mail Host): 使用する E メール・ホスト・サーバー名
- E メール・ポート (E-mail Port): 使用する E メール・ポート番号

スケジュール・タイプ: 曜日

スケジュール時刻 (Schedule Time): 水曜日 10:00 a.m.

日付の除外: なし

レポート 3

スケジュールに入れるレポート (Report to schedule):

BPDefList_ByBPDefStatus

このレポートは、ステータス別にビジネス・プロセス定義のリストを示します。

フォーマット: HTML

E メール・アドレス (E-mail Address):

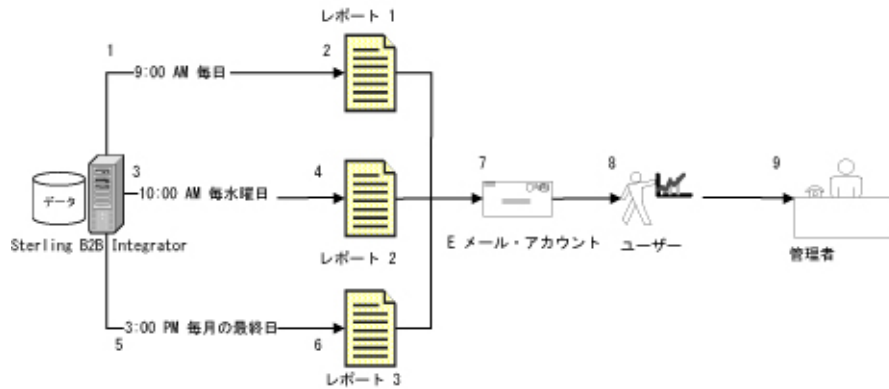
- 件名: レポート 3
- E メール・アドレス (E-mail Address): yourname@yourcompany.com
- E メール・ホスト (E-mail Host): 使用する E メール・ホスト・サーバー名
- E メール・ポート (E-mail Port): 使用する E メール・ポート番号

スケジュール・タイプ: 月ごとの日付

スケジュール時刻 (Schedule Time): LDOM (月の最終日) 3:00 p.m.

日付の除外: なし

以下の図では、レポートが、スケジュールに基づき実行されてから、ユーザーに E メールで送信され、ユーザーが管理者にレポートを提出するまでを示しています。



1. BPDetail_ByState レポート (レポート 1) は、毎日 09:00 a.m. に実行されます。
2. レポートが作成され、ユーザーの E メール・アカウントに送信されます。
3. 毎週水曜日の 10:00 a.m. に、EDIOutAck_GroupLevel_BySenderReceiver レポート (レポート 2) が実行されます。
4. レポートが作成され、ユーザーの E メール・アカウントに送信されます。
5. 毎月の最終日 (LDOM) の 3:00 p.m. に、BPDefList_ByBPDefStatus レポート (レポート 3) が実行されます。
6. レポートが作成され、ユーザーの E メール・アカウントに送信されます。
7. 適切な時刻に E メール・アカウントからレポートを取り出し、管理者用のレポートを作成します。
8. 指定された期限までに管理者にレポートを提出します。

スタンドアロン・サービスのスケジュール

スタンドアロン・サービスとして実行可能なサービスおよびアダプターについてのみスケジュールをセットアップできます。ただし、すべてのサービスおよびアダプターは、スケジュールされている 1 つのビジネス・プロセスに含めることができます。

サービスのスケジュールの作成は、サービス構成の作成の一部です。スタンドアロン・サービスが、毎時、毎日、毎週、または毎月という間隔で自動的に実行されるようにスタンドアロン・サービスをスケジュールすることができます。次のガイドラインを考慮してください。

- サービスをスケジュールする場合、そのサービスのみスケジュールします。1 つのスケジュールを作成して、それを同時に多数のサービスに適用することはできません。
- スケジュール設定は、Sterling B2B Integrator で使用するデータベース内に保管され、Sterling B2B Integrator のみで使用されます。Sterling B2B Integrator の外部のアプリケーションのスケジュールは、Sterling B2B Integrator 内で作成するサービスおよびアダプターのスケジュールに影響を与えません。

- いくつかのスタンドアロンのサービスおよびアダプターは、 Sterling B2B Integrator のインストール時にデフォルトのスケジュールと共に提供されます。『提供されるサービスおよびアダプターのデフォルト・スケジュール』を参照してください。
- 「実行ユーザー」オプションは、スーパーユーザーだけが使用可能です。管理者グループまたは他のグループのサブグループはこのオプションを使用できません。

スケジュールを作成できるスタンドアロンのサービスおよびアダプターには以下が含まれます。

スタンドアロンのサービスおよびアダプター	
B2B メール・クライアント・アダプター	IBM Information Exchange FTP アダプター
BackupService	ビジネス・プロセス索引付けサービス
コマンド・ライン 2 アダプター	Java™ Database Connectivity (JDBC) アダプター
注: コマンド・ライン 2 アダプターは、使用終了予定のコマンド・ライン・アダプターに置き換わるものでもあります。	Lightweight JDBC adapter
IBM Sterling Connect:Enterprise® アダプター	メールボックス総自動ルーティング・ルール評価サービス
EDI エンベロープ・サービス	メールボックス・ルーティング・ルール評価サービス
EDI 期限切れ確認応答検査サービス	メールボックス・スケジュール済み削除サービス
ファイル・システム・アダプター	Oracle AQ JMS キュー・アダプター
FTP Get アダプター	Oracle AQ JMS トピック・アダプター
IBM Sterling Gentran:Server® UNIX パージ・プロセス・サービス	Perf データ・パージ・サービス
IBM Sterling Gentran:Server Windows アダプター	パージ・サービス
GXS ICS FTP アダプター	ビジネス・プロセス・リンケージ・パージ・サービス
	保存プロセッサ

スタンドアロン・サービスのスケジュールの作成 このタスクについて

サービスの構成時にサービス・スケジュールを作成します。

手順

1. サービスまたはアダプターをインストールします。
2. サービスを構成するには、「展開」 > 「サービス (Services)」 > 「構成」を選択します。サービスまたはアダプターに必要なステップを実行します。

3. 「スケジュール・タイプ」ページが表示されたら、スケジューリング・ウィザードを使用してセットアップを行います。

タイマー、毎日、曜日、または日付に基づいてスケジュールを実行できます。

4. 「終了」をクリックします。スケジュールが保存され、使用可能になり、実行できる状態になります。

スタンドアロン・サービスのスケジュールの編集 手順

1. 編集中のスケジュールを使用不可にします。この操作により、作業中にスケジュールが実行された場合のエラーを防ぐことができます。
2. 「展開」 > 「スケジュール」を選択します。
3. スケジュールの名前を「検索」フィールドに入力し、「実行」をクリックします。

または、「リスト・ボックス内のサービス (Services in the List box)」を選択し、「実行」をクリックします。次に、リスト内の任意のスケジュールの横の「編集」をクリックします。

4. スケジューリング・ウィザードに従い、スケジュールを調整します。

タイマー、毎日、曜日、または日付に基づいてスケジュールを実行できます。

5. 「終了」をクリックして、スケジュールの変更を保存および適用します。
6. スケジュールを使用可能にします。

スタンドアロンのビジネス・プロセスまたはサービスのスケジュールの削除

手順

1. Sterling B2B Integrator で、「展開」 > 「スケジュール」を選択します。

Sterling B2B Integrator AS2 エディションで、「管理メニュー」 > 「スケジュール」を選択します。

2. スケジュールの名前を「検索」フィールドに入力し、「実行」をクリックします。

または、リスト・ボックスを使用して、「ビジネス・プロセスまたはサービス (Business processes or Services)」を選択し、「実行」をクリックします。

3. 削除するスケジュールの横にある「削除」をクリックします。

「リソースのサマリー」画面には、確認できるようにスケジュールのデータが表示されます。

4. 「次へ (Next)」をクリックして、削除を続行します。

「確認」画面が表示されます。

5. 「削除」をクリックして確認します。

スケジュールは即時に削除されます。ブートストラップされるプロセスなど、このスケジュールに関連付けられた他のビジネス・プロセスは処理されません。

6. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

スタンドアロン・サービス・スケジュールの例

この例は、以下の 2 つのスケジューリング・アクティビティーで構成されます。

- 毎週 1 日、特定の時刻にファイル・システム・アダプターをスケジュールする (週次スケジュール)。
- 月に 1 日、特定の時刻に IBM Sterling Gentrans:Server Windows アダプターをスケジュールする (月次スケジュール)。

過去の処理傾向を分析することで、毎週データを収集する必要のあるファイル・システムがあると判断します。また、管理者向けのレポートを作成する元になる情報を、使用頻度の低いファイル・システムから 1 カ月に 1 回収集する必要があると判断します。

処理ボリュームやピーク時の分析およびこれらの両方のプロセスの重要度により、両方のサービスをオフピーク時にスケジュールできると判断します。

- ファイル・システム・アダプター 1 (毎週) – 毎週月曜日 07:00 a.m.
- ファイル・システム・アダプター 2 (毎月) – LDOM (月の最終日) 06:00 a.m.

以下の表は、ファイル・システム・アダプターに設定するスケジュール・パラメーターを示しています。

ファイル・システム・アダプター 1

スケジュールに入れるサービス (Service to schedule): ファイル・システム・アダプター

タイマーまたはクロック: クロック (毎週)

システム: node1

実行日: 毎週月曜日

スケジュールされた時刻: 07:00 a.m.

除外する時刻: なし

除外する日: なし

始動時: いいえ

実行ユーザー: 管理者

ファイル・システム・アダプター 2

スケジュールに入れるサービス (Service to schedule): ファイル・システム・アダプター

タイマーまたはクロック: クロック (毎月)

システム: node1

実行日: LDOM (月の最終日)

スケジュールされた時刻: 06:00 a.m.

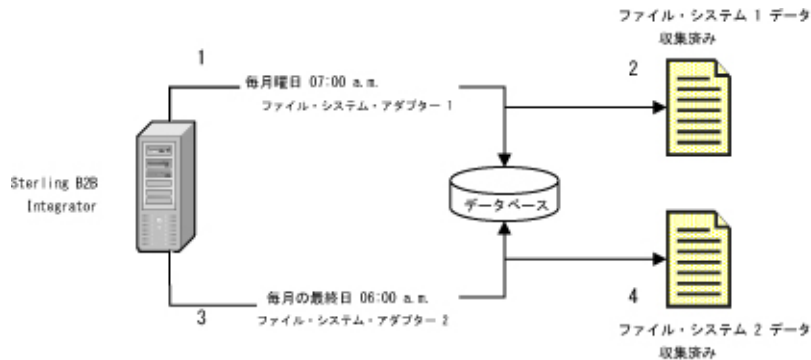
除外する時刻: なし

除外する日: なし

始動時: いいえ

実行ユーザー: 管理者

この図では、スケジュールに基づいて実行されるサービスおよびファイル・システムから収集されるデータを示しています。



1. 毎週月曜日の 07:00 a.m. に、 Sterling B2B Integrator のファイル・システム・アダプター 1 が実行され、データを取得するためにファイル・システム 1 をチェックします。
2. ファイル・システム 1 のデータを収集し、適切なビジネス・プロセスまたはサービスで使用するために、 Sterling B2B Integrator にそのデータを取り込みます。
3. 毎月最終日の 06:00 a.m. に、ファイル・システム・アダプター 2 サービスが Sterling B2B Integrator で実行され、データを取得するためにファイル・システム 2 をチェックします。
4. ファイル・システム 2 のデータを収集し、適切なビジネス・プロセスまたはサービスで使用するために、 Sterling B2B Integrator にそのデータを取り込みます。このデータを基に、管理者向けのレポートを作成できます。

提供されるサービスおよびアダプターのデフォルト・スケジュール

いくつかのサービスおよびアダプターは、 Sterling B2B Integrator のインストール時にデフォルト・スケジュールと共に提供されます。ニーズに合うようにデフォルトのスケジュールを編集できます。

インストール時に提供されるサービスまたはアダプター	デフォルト・スケジュール設定
<p>AFTPurgeArchiveMailboxes</p> <p>AFT のアーカイブ・メールボックスに保管されているメッセージが、対応する AFT ルートがパージされた直後にパージの対象となるようにします。</p>	<p>使用可能: はい</p> <p>スケジュール・タイプ: ビジネス・プロセス</p> <p>タイマーまたはクロック: クロック</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 毎日</p> <p>スケジュールされた時刻: 04:00 a.m.</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: いいえ</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>
<p>AssociateBPsToDocs</p> <p>有効期限が切れたドキュメントをビジネス・プロセスと関連付け、アーカイブおよびパージを可能にします。</p> <p>注: このサービスは削除しないでください。削除すると、システム・パフォーマンスが低下します。</p>	<p>使用可能: はい</p> <p>スケジュール・タイプ: サービス</p> <p>タイマーまたはクロック: タイマー</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 毎日</p> <p>スケジュールされた時刻: 0 時間 30 分ごと</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: いいえ</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>
<p>AutoTerminate</p> <p>指定日数を超える期間に指定状態にあったビジネス・プロセスを終了します。</p>	<p>使用可能: はい</p> <p>スケジュール・タイプ: サービス</p> <p>タイマーまたはクロック: クロック</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 毎日</p> <p>スケジュールされた時刻: 04:00 AM</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: いいえ</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>

インストール時に提供されるサービスまたはアダプター	デフォルト・スケジュール設定
<p>BackupService</p> <p>完了または終了したビジネス・プロセス・データをバックアップします。</p>	<p>使用可能: はい</p> <p>スケジュール・タイプ: サービス</p> <p>タイマーまたはクロック: クロック</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 毎日</p> <p>スケジュールされた時刻: 02:00 a.m.</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: いいえ</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>
<p>BPExpirator</p> <p>タイムアウト期間の満了時に待機サービスを継続します。</p>	<p>使用可能: はい</p> <p>スケジュール・タイプ: サービス</p> <p>タイマーまたはクロック: タイマー</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 毎日</p> <p>スケジュールされた時刻: 0 時間 15 分ごと</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: はい</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>
<p>BPLinkagePurgeService</p> <p>有効期限が切れたビジネス・プロセスの階層データをパージします。 注: このサービスは削除しないでください。削除すると、システム・パフォーマンスが低下します。</p>	<p>使用可能: はい</p> <p>スケジュール・タイプ: サービス</p> <p>タイマーまたはクロック: クロック (毎日)</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 毎日</p> <p>スケジュールされた時刻: 02:30 a.m.</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: いいえ</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>

インストール時に提供されるサービスまたはアダプター	デフォルト・スケジュール設定
<p>BPREcovery</p> <p>未完了のビジネス・プロセスを回復します。</p>	<p>使用可能: はい</p> <p>スケジュール・タイプ: サービス</p> <p>タイマーまたはクロック: タイマー</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 毎日</p> <p>スケジュールされた時刻: 0 時間 45 分ごと</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: はい</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>
<p>CheckExpireService</p> <p>証明書の有効期限が切れそうでないかを確認します。</p>	<p>使用可能: はい</p> <p>スケジュール・タイプ: サービス</p> <p>タイマーまたはクロック: クロック</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 毎日</p> <p>スケジュールされた時刻: 02:30 a.m.</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: いいえ</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>
<p>DataStoreFileSystem</p>	<p>使用可能: いいえ</p> <p>スケジュール・タイプ: サービス</p> <p>タイマーまたはクロック: タイマー</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 毎日</p> <p>スケジュールされた時刻: 0 時間 1 分ごと</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: はい</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>

インストール時に提供されるサービスまたはアダプター	デフォルト・スケジュール設定
<p>DBMonitor</p> <p>データベースの正常性に関する問題の兆候となりうる一般的な状態がないかデータベースをモニターします。</p>	<p>使用可能: はい</p> <p>スケジュール・タイプ: サービス</p> <p>タイマーまたはクロック: クロック</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 月曜日</p> <p>スケジュールされた時刻: 04:00 a.m.</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: いいえ</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>
<p>DocumentStatsArchive</p> <p>ドキュメントの統計を再計算します。</p>	<p>使用可能: はい</p> <p>スケジュール・タイプ: サービス</p> <p>タイマーまたはクロック: タイマー</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 毎日</p> <p>スケジュールされた時刻: 0 時間 30 分ごと</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: いいえ</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>
<p>IndexBusinessProcessService</p> <p>完了または終了したビジネス・プロセス・データをデータベースの索引表に移動します。 注: このサービスは削除しないでください。削除すると、システム・パフォーマンスが低下します。</p>	<p>使用可能: はい</p> <p>スケジュール・タイプ: サービス</p> <p>タイマーまたはクロック: タイマー</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 毎日</p> <p>スケジュールされた時刻: 0 時間 10 分ごと</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: いいえ</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>

インストール時に提供されるサービスまたはアダプター	デフォルト・スケジュール設定
<p>IWFCDriverService</p> <p>wfc_error/iwfc ディレクトリーから iwfc オブジェクトを回復し、サブプロセスの開始を試みます。サブプロセスが開始されると、ファイルは削除されます。開始されない場合は、ファイルは次のスケジュールされた実行のためにディレクトリーに残ります。</p>	<p>使用可能: はい</p> <p>スケジュール・タイプ: サービス</p> <p>タイマーまたはクロック: クロック (毎日)</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 毎日</p> <p>スケジュールされた時刻: 03:00 a.m.</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: いいえ</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>
<p>MailboxEvaluateAllAutomaticRules</p> <p>自動処理に指定されたすべてのメールボックス・ルールを評価します。</p>	<p>使用可能: いいえ</p> <p>スケジュール・タイプ: サービス</p> <p>タイマーまたはクロック: タイマー</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 毎日</p> <p>スケジュールされた時刻: 0 時間 1 分ごと</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: いいえ</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>
<p>MailboxEvaluateAllAutomaticRulesSubMin</p> <p>自動処理に指定されたすべてのメールボックス・ルールを評価します。</p>	<p>使用可能: いいえ</p> <p>スケジュール・タイプ: ビジネス・プロセス</p> <p>タイマーまたはクロック: タイマー</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 毎日</p> <p>実行時間: 0 時間 10 秒ごと</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: いいえ</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>

インストール時に提供されるサービスまたはアダプター	デフォルト・スケジュール設定
<p>MessagePurge</p> <p>有効期限が切れたユーザー・メッセージをパージします。</p> <p>注: このサービスは削除しないでください。削除すると、システム・パフォーマンスが低下します。</p>	<p>使用可能: はい</p> <p>スケジュール・タイプ: サービス</p> <p>タイマーまたはクロック: タイマー</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 毎日</p> <p>スケジュールされた時刻: 0 時間 30 分ごと</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: いいえ</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>
<p>NonEDiInboundFSAdapter</p> <p>変換のために <i>install_dir/nonediinbound/collect</i> ディレクトリーからファイルを収集します。</p>	<p>使用可能: いいえ</p> <p>スケジュール・タイプ: サービス</p> <p>タイマーまたはクロック: タイマー</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 毎日</p> <p>スケジュールされた時刻: 2 時間 0 分ごと</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: はい</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>
<p>NonEDiOutboundFSAdapter</p> <p>変換のために <i>install_dir/nonedioutbound/collect</i> ディレクトリーからファイルを収集します。</p>	<p>使用可能: いいえ</p> <p>スケジュール・タイプ: サービス</p> <p>タイマーまたはクロック: タイマー</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 毎日</p> <p>スケジュールされた時刻: 2 時間 0 分ごと</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: はい</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>

インストール時に提供されるサービスまたはアダプター	デフォルト・スケジュール設定
<p>PartialDocumentCleanUp</p> <p>有効期限が切れた不完全ドキュメントをパージします。</p>	<p>使用可能: はい</p> <p>スケジュール・タイプ: サービス タイマーまたはクロック: タイマー</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 毎日</p> <p>スケジュールされた時刻: 2 時間 0 分ごと</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: いいえ</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>
<p>PerfDataPurgeService</p> <p>YFS_STATISTICS_DETAILS からデータをパージします。</p>	<p>使用可能: はい</p> <p>スケジュール・タイプ: サービス タイマーまたはクロック: クロック</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 毎日</p> <p>スケジュールされた時刻: 03:00 a.m.</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: いいえ</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>
<p>ProduceMsgPurgeService</p> <p>有効期限が切れたユーザー・メッセージをパージします。 注: このサービスは削除しないでください。削除すると、システム・パフォーマンスが低下します。</p>	<p>使用可能: はい</p> <p>スケジュール・タイプ: サービス タイマーまたはクロック: クロック</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 毎日</p> <p>スケジュールされた時刻: 02:00 a.m.</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: いいえ</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>

インストール時に提供されるサービスまたはアダプター	デフォルト・スケジュール設定
<p>PurgeService</p> <p>完了または終了したビジネス・プロセス・データをライブ表からパージします。 注: このサービスは削除しないでください。削除すると、システム・パフォーマンスが低下します。</p>	<p>使用可能: はい</p> <p>スケジュール・タイプ: サービス タイマーまたはクロック: タイマー</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 毎日</p> <p>スケジュールされた時刻: 0 時間 10 分ごと</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: いいえ</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>
<p>RetentionProcessor</p> <p>レポート・サービスのデータ・リポジトリから対象となるレコードをパージします。</p>	<p>使用可能: はい</p> <p>スケジュール・タイプ: サービス タイマーまたはクロック: クロック</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 毎日</p> <p>スケジュールされた時刻: 02:00 a.m.</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: いいえ</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>
<p>Scheduled_AlertService</p> <p>ビジネス・プロセスのエラー状況を確認します。</p>	<p>使用可能: いいえ</p> <p>スケジュール・タイプ: サービス タイマーまたはクロック: タイマー</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 毎日</p> <p>スケジュールされた時刻: 0 時間 30 分ごと</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: はい</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>

インストール時に提供されるサービスまたはアダプター	デフォルト・スケジュール設定
<p>SyncEngine_DataCleanManager</p> <p>すべてのタスクが同期プロセスに基づいて完了すると、SyncEngine 表のデータが消去されます。</p>	<p>使用可能: いいえ</p> <p>スケジュール・タイプ: サービス</p> <p>タイマーまたはクロック: タイマー</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 毎日</p> <p>スケジュールされた時刻: 20 時間 45 分ごと</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: はい</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>
<p>SyncnEngine_TaskManager</p> <p>SyncEngine のタスクを管理します。</p>	<p>使用可能: いいえ</p> <p>スケジュール・タイプ: サービス</p> <p>タイマーまたはクロック: タイマー</p> <p>システム: node1</p> <p>実行日: 毎日</p> <p>スケジュールされた時刻: 6 時間 0 分ごと</p> <p>除外する時刻: なし</p> <p>除外する日: なし</p> <p>始動時: はい</p> <p>実行ユーザー: 管理者</p>

スケジュールのトラブルシューティング

ビジネス・プロセス、レポート、またはサービスがスケジュール通りに実行されないといった問題が発生した場合には、以下の情報を使用して、問題のトラブルシューティングおよび修正をしやすいことができます。実際の問題は、スケジュールではなく、ビジネス・プロセス、サービス、またはレポートにある可能性もあります。ここに記載されているすべてのオプションを試した後に、ビジネス・プロセス、サービス、またはレポートが依然として適切に実行されていない場合は、アクティビティのトラブルシューティングを行います。

スケジュールに関する情報はどこにありますか

「展開」>「スケジュール」>「検索」>「スケジュール」ページ

リストにより、スケジュール設定の表示およびスケジュールの使用可能化または使用不可化を行うことができます。

「ビジネス・プロセス」>「マネージャー」>「検索」>「実行マネージャー」ページ
ビジネス・プロセスの使用可能化、使用不可化、または実行、停止を行うことができます。

「展開」>「サービス (Services)」>「構成」>「サービス構成」ページ

リストにより、サービス設定の表示、サービスの使用可能化や使用不可化、またはサービスの編集やコピーを行うことができます。

「操作」>「レポート」>「検索」>「レポート」ページ

リストにより、レポート構成の表示、レポートの使用可能化や使用不可化、レポート構成の編集やコピー、およびレポート・スケジュールの編集を行うことができます。

「操作」>「システム (System)」>「ログ」>「システム・ログ」ページ

schedule.log を含むログ・レポートのリストは、スケジュールのトラブルシューティングに役立ちます。

スケジュールが実行されない場合どうしますか

スケジュールが Sterling B2B Integrator で使用可能であることを確認します。

- スケジュールが使用不可になっている場合は、スケジュールを使用可能にします。
- スケジュールが使用可能になっている場合は、アクティビティーが Sterling B2B Integrator で使用可能になっていることを確認します。アクティビティーが使用不可になっている場合は、アクティビティーを使用可能にします。これにより、スケジュールは実行されます。

スケジュール構成を調べて、スケジュール設定が正しいことを確認します。

- スケジュール設定が正しくない場合、スケジュールを編集し、希望する時間にスケジュールが実行されるように修正します。

スケジュールされたアクティビティー (ビジネス・プロセス、サービスやアダプター、またはレポート) が Sterling B2B Integrator から削除されていないことを確認します。

- アクティビティーが削除されている場合、構成およびスケジュールを再作成します。
- アクティビティーが削除されていなかった場合、アクティビティー構成を調べます。スケジュール設定が構成されていない場合、スケジュールは Sterling B2B Integrator に保存されていません。アクティビティーの新規スケジュールを作成します。

スケジュールがスケジュールした時刻とは異なる時刻に実行された場合どうしますか

スケジュール構成を調べて、スケジュール設定が正しいことを確認します。スケジュール設定が正しくない場合、スケジュールを編集し、スケジュールがスケジュールした時間に実行されるように修正します。

スケジュールのトラブルシューティングにログ・ファイルを使用できますか

schedule.log ファイルは、サービス、ビジネス・プロセス、およびレポートのスケジュールに関する情報を提供し、スケジュール実行時にエラーが発生したかどうかを判断する際に役立ちます。

スケジュールされたアクティビティの実行時にエラーが発生した場合、スケジュールの情報が schedule.log ファイルに表示されます。スケジュール作成時に入力したスケジュール設定とログ・ファイルの情報を比較し、設定に差異があるかを確認できます。

設定が一致している場合、エラーの原因は、アクティビティ自体にある可能性があります。この場合、アクティビティの該当するログを確認する必要があります。例えば、report.log ファイルは、レポートに関する詳細な情報を示します。

schedule.log を使用するには、以下を行います。

1. 「システム・ログ (System Logs)」ページを表示します。「操作」 > 「システム (System)」 > 「ログ (Logs)」を選択します。次に schedule.log を選択します。
2. schedule.log を選択します。ログには以下のパラメーターが含まれます。

scheduleType

スケジュール・タイプを示す番号。有効な値は次のとおりです。

- 1 - サービス・スケジュール
- 2 - ビジネス・プロセス・スケジュール

scheduleID

データベース内の特定のスケジュールを識別する固有スケジュール ID。

scheduleTypeID

スケジュールにより呼び出されるビジネス・プロセス ID。

serviceName

スケジュールされているサービスまたはビジネス・プロセスの名前。

params

現在未使用。

executionCount

現在未使用。

executionCurrentCount

現在未使用。

executionStatus

現在未使用。

status スケジュールのステータス。有効な値は次のとおりです。

active – 使用可能

inactive – 使用不可

systemName

スケジュールがあるノードの番号。これは、Sterling B2B Integrator のクラスタ環境で作業する場合に役立ちます。

execOnMinute

スケジュールのタイプを指定するのに加え、始動時にスケジュールを実行するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

0 – 始動時に実行されないタイマー・スケジュール。

1 – 開始時に実行されない毎日、毎週、または毎月のスケジュール。

2 – 始動時に実行されるタイマー・スケジュール。

3 – 始動時に実行される毎日、毎週、または毎月のスケジュール。

userID スケジュールを実行するユーザー。例えば、admin は管理者です。

timingXML

スケジュールの日時の範囲および除外に関するパラメーター。値には、以下が含まれます。

Day of the week – 曜日を示す番号。月曜 (1)、火曜 (2)、水曜 (3)、木曜 (4)、金曜 (5)、土曜 (6)、日曜 (0)、毎日 (-1)

Range – 時間間隔の時間の範囲。

hashcode

問題のデバッグ時に使用されます。

以下は、デバッグが使用可能になっている schedule.log ファイルの一部を示しています。

```
scheduleType:      '1'
scheduleTypeID:   '151'
serviceName:      'MailboxEvaluateAllAutomaticRules'
params:           'null'
executionCount:   '-1'
executionCurrentCount: '0'
executionStatus:  'WAIT'
status:           'INACTIVE'
systemName:       'node1'
execOnMinute:     '0'
userID:           'admin'
timingXML:         '<timingxml>
  <days>
    <day ofWeek="-1">
      <times>
        <timeRange>
          <range>0000-2359</range>
          <interval>1</interval>
          <onMinute>0</onMinute>
        </timeRange>
      </times>
    </day>
  </days>
</timingxml>
hashcode: 11916079
```

スケジューリング・ウィザードのパラメーター

スケジューリング・ウィザードには、スケジュールするリソースおよび選択するスケジュール・タイプに適切なオプションが表示されます。

スケジューリング・ウィザード: スケジュール・タイプ・ページ

Run As ユーザー

スーパーユーザーのみに使用できます。スケジュールされたアクティビティの実行許可を有するユーザーを示します。ユーザー ID を入力するか、または、ボタンをクリックし、リストからユーザー ID を選択して「保存」をクリックできます。

注: スケジュールされたサービスの場合、このオプションを利用できるのはスーパーユーザーに限られます。管理者グループまたは他のグループのサブグループはこのオプションを使用できません。

24 時間クロック表示の使用 (Use 24 Hour Clock Display)

デフォルトでは、スケジューリング・ウィザードでの時間表示は 12 時間クロック表示 (時間を a.m. または p.m. で表示) を使用しています。24 時間クロック表示を使用して時間を表示する場合はこのオプションを使用します。

「スケジュールを使用しない (Do not use schedule)」

レポート・スケジュールおよびサービス・スケジュールのみに使用できます。サービスまたはレポートからスケジュールへのすべての参照を削除します。このオプションを選択すると、今後スケジュールを使用可能にすることはできません。代わりに、スケジュールを再作成する必要があります。サービスまたはレポートのスケジュールが必要でない場合にのみこのオプションを使用します。

「タイマーに基づいて実行 (Run based on timer)」

特定の時間または 2 時間毎などの時間間隔でスケジュールされたアクティビティを実行します。39 ページの『タイマーに基づいたスケジュールの実行』を参照してください。

「毎日実行 (Run daily)」

スケジュールされたアクティビティを毎日 1 回以上実行します。40 ページの『スケジュールを毎日実行する』を参照してください。

「曜日に基づいて実行 (Run based on day(s) of the week)」

スケジュールされたアクティビティを毎週月曜日などのような特定の曜日に実行します。42 ページの『曜日に基づいたスケジュールの実行』を参照してください。

「日付に基づいて毎月実行 (Run based on day(s) of the month)」

スケジュールされたアクティビティを毎月の 1 日または 15 日などのような月の特定日に実行します。43 ページの『日付に基づいたスケジュールの実行』を参照してください。

スケジューリング・ウィザード: レポートの E メール・オプション・ページ

レポートをスケジュールする場合にのみ E メール・オプションが表示されます。

レポートをファイル・システムに保管

これが選択されている場合、レポートはファイルとして保管されます。

注: 「レポートをファイル・システムに保管 (Store reports on the file system)」または「E メール・アドレス (E-mail Address)」を選択する必要があります。両方のオプションを選択できます。

ファイル パス

レポートが保管されるファイル・パス。

E メール・アドレス (E-mail Address)

これが選択されている場合、レポートは指定した E メール・アドレスに送信されます。1 つの E メール・アドレスのみ指定できます。

注: 「レポートをファイル・システムに保管 (Store reports on the file system)」または「E メール・アドレス (E-mail Address)」を選択する必要があります。両方のオプションを選択できます。

件名 指定したアドレスに送信する Eメールの件名。

E メール・アドレス (E-mail Address)

レポート送信先の E メール・アドレス。

E メール・ホスト (E-mail Host)

E メール・サーバー名。

E メール・ポート (E-mail Port)

E メール・サーバーのポート番号。

スケジューリング・ウィザード: 設定ページ

スケジューリング・ウィザードで選択するスケジュールのタイプによって、以下のページのいずれを参照するかが決まります。

- 39 ページの『タイマーに基づいたスケジュールの実行』を参照してください。
- 40 ページの『スケジュールを毎日実行する』を参照してください。
- 42 ページの『曜日に基づいたスケジュールの実行』を参照してください。
- 43 ページの『日付に基づいたスケジュールの実行』を参照してください。

スケジューリング・ウィザード: ビジネス・プロセスおよびレポートの構成ページ

オプション	説明
ビジネス・プロセス	ビジネス・プロセスのみに使用できます。スケジュールを作成するビジネス・プロセスを特定します。

オプション	説明
スケジュールに入れるレポートの選択	レポートのみに使用できます。スケジュールに入れるレポートおよびそのフォーマットを特定します。
フォーマット (Format)	レポート・フォーマットは、PDF (デフォルト)、HTML、または XLS です。
名前、値、付加	<p>ビジネス・プロセスのみに使用できます。ビジネス・プロセスに受け渡す XML データの名前/値の組を入力します。</p> <p>名前/値の組それぞれについて、この名前/値の組が受け渡されるたびにデータを上書きするか付加するかを選ぶことができます。データを付加する場合は、「付加」にチェック・マークを付けます。</p> <p>1 個の名前/値の組の名前と値を入力し (この後必要に応じて「付加」にチェック・マークを付け)、「追加 (Add)」をクリックします。名前/値の組が画面上の表に表示されます。名前/値の組を追加するには、これを繰り返し行います。</p> <p>表から名前/値の組を削除するには、名前/値の組を選択し、「削除」をクリックします。</p> <p>ヒント: bprecovery.properties ファイルには以下の有効なスケジューリング名およびデフォルト値がリストされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • auto_terminate_days=14 • num_states=1 • auto_terminate_state1=halted • auto_terminate_batch=1000

スケジューリング・ウィザード: ページの確認

スケジューリング・ウィザードの最後のページを使用して、既に行った選択が正しいことを確認します。

タイマーに基づいたスケジュールの実行

タイマーに基づいたスケジュールでは、特定の時刻または 2 時間毎などの時間間隔でスケジュールされたアクティビティを実行します。毎日同じ時刻に同じアクティビティを実行する場合、またはデータベースの情報を索引付け、アーカイブ、およびパージする場合にこのスケジュール・タイプを使用します。

スケジュールされたアクティビティが、処理のピーク時およびオフピーク時に関係なく、1 日に 1 回以上実行される場合、日次スケジュールの代わりにタイマー指定のスケジュールを使用します。

タイマー・スケジュールの設定 (時間間隔の選択)

スケジュールされたアクティビティが実行される通常の間隔を指定します。

___ 時間 ___ 分ごと (Every ___ hours ___ minutes)

間隔の時間数と分数。例えば、2.5 時間おきにビジネス・プロセスを実行するには、2 時間と 30 分のように入力します。

始動時 オプション。Sterling B2B Integrator の始動時に、スケジュールされたアクティビティを実行するかどうかを指定します。スケジュールされたアクティビティは、スケジュールがデータベースに保存された直後にも 1 回実行されます。

タイマー・スケジュールの除外 (時間間隔の選択)

オプション。通常の間隔がスキップされて、スケジュールされたアクティビティが実行されない時刻を指定します。

オプション	説明
AM/PM ___ から AM/PM ___ まで (From ___ AM/PM To ___ AM/PM) 「追加 (Add)」をクリックします。	除外する間隔の開始時刻と終了時刻を入力し、「追加 (Add)」をクリックします。例えば、ビジネス・プロセスが 2.5 時間毎に実行される場合、12 p.m. から 1 p.m. と入力し、その時間はスキップするようにします。 複数の除外する間隔を追加できます。

日付の除外 (タイマー・スケジュール)

オプション。通常の間隔がスキップされ、スケジュールされたアクティビティが実行されない日付を指定します。

オプション	説明
月 ___ 日 ___ (Months ___ Days ___) 「追加 (Add)」をクリックします。	除外する月および日を選択し、「追加 (Add)」をクリックします。例えば、1 月 1 日を選択すると、この日がスキップされます。 複数の除外する日を追加できます。

スケジュールを毎日実行する

日次スケジュールは、指定した時間または特定の時間間隔で 1 日に 1 回以上スケジュールされたアクティビティを実行します。1 日に 1 回または 1 日に数回、同じアクティビティを毎日実行する場合は、このスケジュールを使用します。

スケジュールされたアクティビティが処理のオフピーク時に毎日実行される場合、タイマー指定のスケジュールの代わりに日次スケジュールを使用します。

日次スケジュールの設定 (時間または時間間隔の選択)

スケジュールされたアクティビティが毎日実行される通常の間隔を指定します。

内容	実行するオプション	例
毎日 1 回以上スケジュールされたアクティビティを実行する	<p>___ (時刻) ___ (AM または PM) (___ (hours) ___ (AM or PM))</p> <p>「追加 (Add)」をクリックします。</p>	<p>ビジネス・プロセスまたはレポートを 10:15 a.m. に実行するには、10:15 a.m. と入力し、「追加 (ADD)」をクリックします。</p> <p>複数の特定の時間を追加できます。</p>
毎日スケジュールされたアクティビティを特定の間隔で実行する	<p>時間間隔を選択するには、ここにチェック・マークを付けてください。</p> <p>___ から ___ まで (From ___ To ___)</p> <p>___ 時間 ___ 分ごと (Every ___ hours ___ minutes)</p> <p>「追加 (Add)」をクリックします。</p>	<p>正午から深夜 12 時の間に 2.5 時間毎に毎日ビジネス・プロセスまたはレポートを実行するには、以下のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「時間間隔を選択するには、ここにチェック・マークを付けてください」を選択します。 12:00 p.m から 12:00 a.m. と入力します。 2 時間 30 分ごとと入力します。 「追加 (Add)」をクリックします。 <p>複数の時間間隔を追加できます。</p>
スケジュールされたアクティビティを始動時に実行する	始動時	<p>オプション。Sterling B2B Integrator の始動時に、スケジュールされたアクティビティを実行するかどうかを指定します。スケジュールされたアクティビティは、スケジュールがデータベースに保存された直後にも 1 回実行されます。</p>

日次でのスケジュールの除外 (時間間隔の選択)

オプション。通常の間隔がスキップされて、スケジュールされたアクティビティが実行されない時刻を指定します。

オプション	説明
<p>AM/PM ___ から AM/PM ___ まで (From ___ AM/PM To ___ AM/PM)</p> <p>「追加 (Add)」をクリックします。</p>	<p>除外する間隔の開始時刻と終了時刻を入力し、「追加 (Add)」をクリックします。例えば、ビジネス・プロセスが 2.5 時間毎に実行される場合、12 p.m. から 1 p.m. と入力し、その時間はスキップするようにします。</p> <p>複数の除外する間隔を追加できます。</p>

日付の除外 (日次スケジュール)

オプション。通常の間隔がスキップされ、スケジュールされたアクティビティが実行されない日付を指定します。

オプション	説明
月 ___ 日 ___ (Months ___ Days ___) 「追加 (Add)」をクリックします。	除外する月および日を選択し、「追加 (Add)」をクリックします。例えば、1 月 1 日を選択すると、この日がスキップされます。 複数の除外する日を追加できます。

曜日に基づいたスケジュールの実行

週次スケジュールは、毎週月曜日などのように特定の曜日にスケジュールされたアクティビティを実行します。処理のオフピーク時に、1 週間に 1 回以上スケジュールされたアクティビティを実行する場合にこのスケジュール・タイプを使用します。

週次スケジュールの設定 (時刻/日の選択または時間間隔/日の選択)

スケジュールされたアクティビティが特定の曜日で実行される通常の間隔を指定します。

内容	実行するオプション	例
スケジュールされたアクティビティを特定の曜日に 1 回以上実行する	___ (時刻) ___ (AM または PM) (___ (hours) ___ (AM or PM)) 日の選択 _____ (Select Day _____) 「追加 (Add)」をクリックします。	毎週月曜日の 10:15 a.m. にビジネス・プロセスまたはレポートを実行するには、10:15 a.m. と入力し、「月曜日 (Monday)」を選択し、「追加 (Add)」をクリックします。 複数の特定の時刻/日を追加できます。
スケジュールされたアクティビティを特定の曜日に特定の間隔で実行する	時間間隔を選択するには、ここにチェック・マークを付けてください。 ___ から ___ まで (From ___ To ___) ___ 時間 ___ 分ごと (Every ___ hours ___ minutes) 日の選択 _____ (Select Day _____) 「追加 (Add)」をクリックします。	毎週月曜日の正午から深夜 12 時の間に 2.5 時間毎にビジネス・プロセスまたはレポートを実行するには、以下のようにします。 <ul style="list-style-type: none"> 「時間間隔を選択するには、ここにチェック・マークを付けてください」を選択します。 12:00 p.m から 12:00 a.m. と入力します。 2 時間 30 分ごとと入力します。 「月曜日 (Monday)」を選択します。 「追加 (Add)」をクリックします。 複数の時間間隔/日を追加できます。

内容	実行するオプション	例
スケジュールされたアクティビティを始動時に実行する	始動時	オプション。Sterling B2B Integratorの始動時に、スケジュールされたアクティビティを実行するかどうかを指定します。スケジュールされたアクティビティは、スケジュールがデータベースに保存された直後にも 1 回実行されます。

週次スケジュールの除外 (時間間隔/日の選択)

オプション。通常の間隔がスキップされて、スケジュールされたアクティビティが実行されない時刻を指定します。

オプション	説明
AM/PM ___ から AM/PM ___ まで (From ___ AM/PM To ___ AM/PM) 日の選択 _____ (Select Day _____) 「追加 (Add)」をクリックします。	除外する間隔の開始時刻と終了時刻を入力してから、日を選択し、「追加 (Add)」をクリックします。例えば、ビジネス・プロセスが 2.5 時間毎に実行される場合、12 p.m. から 1 p.m. と入力し、「火曜日 (Tuesday)」を選択します。これで、火曜日のこの時間はスキップされます。 複数の除外する間隔を追加できます。

日付の除外 (週次スケジュール)

オプション。通常の間隔がスキップされ、スケジュールされたアクティビティが実行されない日付を指定します。

オプション	説明
月 ___ 日 ___ (Months ___ Days ___) 「追加 (Add)」をクリックします。	除外する月および日を選択し、「追加 (Add)」をクリックします。例えば、1 月 1 日を選択すると、この日がスキップされます。 複数の除外する日を追加できます。

日付に基づいたスケジュールの実行

月次スケジュールは、毎月の 1 日または 15 日などのように月の特定日にスケジュールされたアクティビティを実行します。同じアクティビティを月ごとまたは四半期ごとに実行する場合はこのスケジュール・タイプを使用します。

月次スケジュールの設定 (時刻/日の選択または時間間隔/日の選択)

スケジュールされたアクティビティが毎月の特定日で実行される通常の間隔を指定します。

内容	実行するオプション	例
スケジュールされたアクティビティを月内の特定日に 1 回以上実行する	<p>___ (時刻) ___ (AM または PM) (___ (hours) ___ (AM or PM))</p> <p>日の選択 __ (Select Day __)</p> <p>「追加 (Add)」をクリックします。</p>	<p>ビジネス・プロセスまたはレポートを毎月 1 日の 10:15 a.m. に実行するには、10:15 a.m. と入力し、1 日を選択し、「追加 (Add)」をクリックします。</p> <p>複数の特定の時刻/日を追加できます。</p> <p>LDOM は月の最終日です。</p>
スケジュールされたアクティビティを月内の特定日に特定の区間で実行する	<p>時間間隔を選択するには、ここにチェック・マークを付けてください。</p> <p>___ から ___ まで (From ___ To ___)</p> <p>日の選択 __ (Select Day __)</p> <p>___ 時間 ___ 分ごと (Every ___ hours ___ minutes)</p> <p>「追加 (Add)」をクリックします。</p>	<p>毎月 1 日の正午から深夜 12 時の間に 2.5 時間毎にビジネス・プロセスまたはレポートを実行するには、以下のようにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「時間間隔を選択するには、ここにチェック・マークを付けてください」を選択します。 12:00 p.m から 12:00 a.m. と入力します。 1 日を入力します。 2 時間 30 分ごとと入力します。 「追加 (Add)」をクリックします。 <p>複数の時間間隔/日を追加できます。</p> <p>LDOM は月の最終日です。</p>
スケジュールされたアクティビティを始動時に実行する	始動時	<p>オプション。Sterling B2B Integrator の始動時に、スケジュールされたアクティビティを実行するかどうかを指定します。スケジュールされたアクティビティは、スケジュールがデータベースに保存された直後にも 1 回実行されます。</p>

月次スケジュールの除外 (時間間隔/日の選択)

オプション。通常の間隔がスキップされ、スケジュールされたアクティビティが実行されない時刻および日を指定します。

オプション	説明
AM/PM ____ から AM/PM ____ まで (From ____ AM/PM To ____ AM/PM) 毎月の日付 ____ (On Days ____) 「追加 (Add)」をクリックします。	除外する間隔の開始時刻と終了時刻を入力してから、日を選択し、「追加 (Add)」をクリックします。例えば、ビジネス・プロセスが 2.5 時間毎に実行される場合、12 p.m. から 1 p.m. と入力し、1 日を選択します。これで、毎月 1 日のこの時間はスキップされます。 複数の除外する間隔を追加できます。 LDOM は月の最終日です。

日付の除外 (月次スケジュール)

オプション。通常の間隔がスキップされ、スケジュールされたアクティビティーが実行されない日付を指定します。

オプション	説明
月 ____ 日 ____ (Months ____ Days ____) 「追加 (Add)」をクリックします。	除外する月および日を選択し、「追加 (Add)」をクリックします。例えば、1 月 1 日を選択すると、この日がスキップされます。 複数の除外する日を追加できます。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation

J46A/G4

555 Bailey Avenue

San Jose, CA 95141-1003

U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、**IBM** 所定のプログラム契約の契約条項、**IBM** プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、**IBM** より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。**IBM** は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。**IBM** 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている **IBM** の価格は **IBM** が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

当該のサンプル・プログラムの複製物のそれぞれ、またはそのあらゆる部分、あるいはすべての派生的創作物にも、次のように著作権表示を入れていただく必要があります。

© IBM 2015. このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。© Copyright IBM Corp. 2015.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> の「Copyright and trademark information」をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

IT Infrastructure Library は英国 Office of Government Commerce の一部である the Central Computer and Telecommunications Agency の登録商標です。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、および Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

ITIL は英国 Office of Government Commerce の登録商標および共同体登録商標であって、米国特許商標庁にて登録されています。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべてのJava 関連の商標およびロゴは Oracleやその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Cell Broadband Engine, Cell/B.E は、米国およびその他の国における Sony Computer Entertainment, Inc. の商標であり、同社の許諾を受けて使用しています。

Linear Tape-Open, LTO、LTO (ロゴ)、Ultrium および Ultrium (ロゴ) は、米国およびその他の国における HP、IBM、および Quantum の商標です。

Connect Control Center[®]、Connect:Direct[®]、Connect:Enterprise、Gentran[®]、Gentran[®]:Basic[®]、Gentran:Control[®]、Gentran:Director[®]、Gentran:Plus[®]、Gentran:Realtime[®]、Gentran:Server[®]、Gentran:Viewpoint[®]、Sterling Commerce[™]、Sterling Information Broker[®]、および Sterling Integrator[®] は、Sterling Commerce[®], Inc.、IBM Company の商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[カ行]

合計処理時間 7

構成, スケジュール 37

考慮事項

スケジュール, アップグレード 4

スケジュール, AS2 エディション 4

[サ行]

サービス・スケジュール

編集 22

例 23

サービス構成・ページ 34

サービス・スケジュール

作成 20

作成

サービス・スケジュール 20

ビジネス・プロセス・スケジュール
10

レポート・スケジュール 16

システム・ログ・ページ 34

実行マネージャー・ページ 34

使用不可, スケジュール 8

スケジュール

概要 1

構成パラメーター 37

考慮事項, アップグレード 4

考慮事項, AS2 エディション 4

サービス, 作成 20

サービス, スタンドアロン 21

サービスの例 23

使用 1

使用可能化 8

使用不可にする 8

前提条件 4

定義 1

テスト 2

トラブルシューティング 33

トラブルシューティング, 問題 34

ビジネス・プロセス, 作成 10

ビジネス・プロセス, 例 11

編集, レポート 17

編集, サービス 22

編集, ビジネス・プロセス 10, 11

スケジュール (続き)

利点 1

レポート 16

レポート, 作成

レポートのスケジュールリング 16

レポートの例 18

スケジュール, E メール・オプション

件名 38

ファイル・パス 38

保管, レポートをファイル・システム
に 38

E メール・ポート 38

E メール・ホスト 38

E メール・アドレス 38

スケジュールを使用可能にする 8

スケジュール・ページ 34

スタンドアロン・サービス 21

[タ行]

テスト, スケジュール 2

トラブルシューティング, スケジュール
33

トラブルシューティング, 問題, スケジ
ュール 34

[ナ行]

名前/値の組 5, 10, 14

[ハ行]

ビジネス・プロセス・スケジュール

作成 10

編集 10, 11

例 11

頻度 8

編集

サービス・スケジュール 22

ビジネス・プロセス・スケジュール
10, 11

レポート・スケジュール 17

[ラ行]

レポート

スケジュール 16

レポート・サービス

使用 16

レポート・スケジュール, 編集 17

レポート・スケジュールの例 18

レポート・ページ 34

ログ・ファイル, スケジュール 35

A

AS2 エディションでのスケジュールリング
の考慮事項 4

AssociateBPsToDocs 25

B

BPEXpirator 26

BPLinkagePurgeService 26

BPRRecovery 27

D

DocumentStatsArchive 28

I

IndexBusinessProcessService 28

IWFCDriverService 29

M

MailboxEvaluateAllAutomaticRules 29

MessagePurge 30

N

NonEDiInboundFSAdapter 30

NonEDiOutboundFSAdapter 30

P

ProduceMsgPurgeService 31

PurgeService 32

S

Scheduled_AlertService 32

schedule.log 35

schedule.log パラメーター 35

SycnEngine_TaskManager 33

SyncEngine_DataCleanManager 33



プログラム番号:

Printed in Japan